

Top Message	環境本部長インタビュー	特集1「第8期富士通グループ環境行動計画」の焦点	特集2 Digital Innovation	Chapter I 社会への貢献	Chapter II 自らの事業活動	環境マネジメント	データ編
ICTの提供による 温室効果ガス(GHG)排出量の削減	持続可能性に貢献する (サステナビリティ)ソリューションの提供	エネルギー効率に優れた トップレベル製品の開発	製品の資源効率向上	先端グリーンICTの 研究開発	社会との協働／ 良き企業市民としての活動		

社会との協働／良き企業市民としての活動

富士通グループのアプローチ

グローバルICT企業として、お客様・社会とともに持続可能で豊かな社会の実現を目指す富士通グループでは、NPO/NGO、教育機関、自治体、市民団体など多様な主体による社会課題の解決に向けた活動を、資金、技術(ICT)、人材(専門性)を通じて支援しています。具体的には、自治体が生物多様性地域戦略を策定・実行するための調査や市民啓発への技術支援、NPOの希少種保護、温暖化対策プロジェクトへの資金支援、モニタリングシステムなどの技術支援、国際機関の社会貢献プログラムへ参加する人材支援などが挙げられます。支援対象内容は、事業拠点、富士通グループ各社が地域のニーズや課題を受けて判断しています。

また、社員一人ひとりが社会・環境課題に対して高い意識を持ち、当事者としてそれらの解決に関わっていくことを奨励し、社員が取り組む社会貢献活動を支援しています。

2015年度の実績サマリー

社会との協働		良き企業市民としての活動	
第7期環境行動計画の目標 (2015年度末まで)	生物多様性などの社会・環境課題の解決に取り組む活動に対し、資金、技術、人材などを支援する。	社員が社会とともに取り組む	社会貢献活動
2015年度実績 (主な事例)	【資金】 児童擁護センターへの寄付や赤十字を通じた災害被害支援 【技術】 静脈認証システムの提供 【人材】 職業訓練の実施 など	社員の社会貢献活動時間	16.9万時間

2015年度の実績・成果

グローバルで社会貢献活動の情報共有体制を構築

富士通グループでは社会貢献活動の情報共有システム「Act Local System」を2011年度から運用しています。以前は国内での利用が大半だったため、第7期環境行動計画の推進と併せて、国・地域別の活動報告を登録しやすいよう、システム改良を進めました。

さらに、各リージョンの社会貢献担当者同士でシステムへの登録を促すなど、グローバル全体でシステム利用を通じた情報共有を促進しました。この結果、システム上で通算14か国の活動が報告され、海外での活動記事の投稿件数は3年前に比べ増加しました。



Act Local Systemの画面

国内外で16.9万時間の社会貢献活動を実施

EMEIAやアジアでは生物多様性保全や次世代人材育成、アメリカでは地域奉仕など、地域ごとに異なる多様なニーズに対し、資金、技術、人材の提供を通じて支援しました。

また、国内外を含めて、社員が取り組んだ社会貢献活動時間は16.9万時間となり、昨年度を2.4万時間上回りました。

第7期環境行動計画の3年間で、国内外の社会貢献活動の推進体制と活動実行が定着したため、2016年度からは各組織が自主的に活動を実施していきます。

社会貢献活動事例

● チャリティ自転車ランの実施／Fujitsu UK & Ireland (英国)

社内でチャリティーイベントを企画し、25名のサイクリストが540マイルを自転車で走破。2,400ポンド以上の資金を集め、富士通のチャリティーパートナーであるAction for Childrenに寄付。



● 教育イベントを支援／Fujitsu Technology Solutions S.A. (ベルギー)

1,200名の子どもたちが参加するイベントにおいて、ソフトウェア開発技術の体験ツールを提供。



● 緑の回廊ランと水チャレンジのイベントに参加／Fujitsu Asia Pte. Ltd (シンガポール)

2016年3月に開催された「緑の回廊ラン2016」に富士通から20名以上が参加したほか、安全な水へのアクセス向上に貢献することを目指して同時開催された「水チャレンジ」にも社員6名および家族が参加。イベントを通じて1,800シンガポールドルを集め、NGOのCharity: Waterに寄付。



Top Message	環境本部長インタビュー	特集1「第8期富士通グループ環境行動計画」の焦点	特集2 Digital Innovation	Chapter I 社会への貢献	Chapter II 自らの事業活動	環境マネジメント	データ編
ICTの提供による 温室効果ガス(GHG)排出量の削減	持続可能性に貢献する (サステナビリティ)ソリューションの提供	エネルギー効率に優れた トップレベル製品の開発	製品の資源効率向上	先端グリーンICTの 研究開発	社会との協働／ 良き企業市民としての活動		

社会との協働／良き企業市民としての活動

2015年度の主な活動報告

マルチセンシング・ネットワークを活用した ブドウ栽培支援

富士通は社員の農業体験の場として活動しているブドウ農園の奥野田葡萄酒醸造株式会社様に対し、2011年6月よりブドウ畑の温度・雨量・湿度データを自動収集するマルチセンシング・ネットワークを提供し、高品質なワイン作りに貢献しています。良質なワインの醸造には、ブドウの収穫時期や色素の度合いを見極めることが重要であり、圃場の気温変化を把握することが有効といわれています。これまで圃場のデータ収集は手計算による集計・分析が一般的でしたが、システムを活用することで、年間を通して1日24時間10分間隔で圃場データを収集できるようになりました。

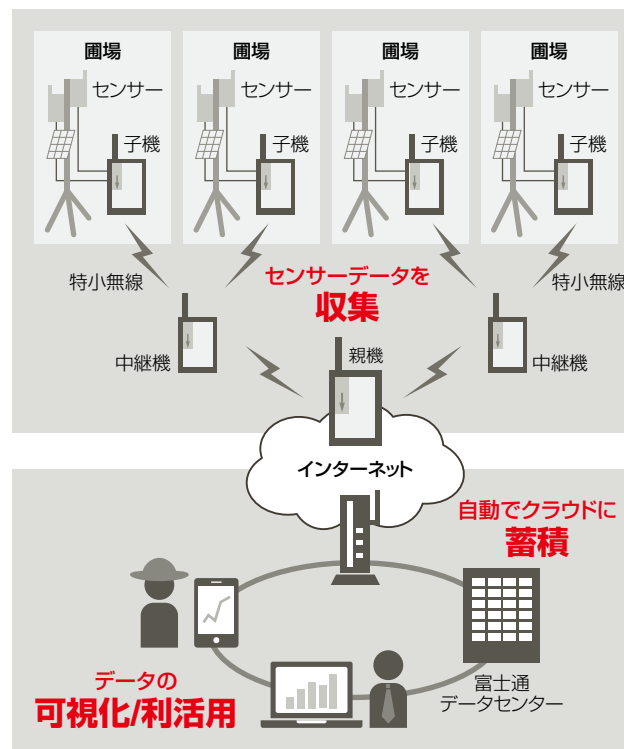
4年にわたって蓄積したデータを統計解析したところ、ブドウにダメージを与える大きな要因の1つである、微生物やカビが発生しやすくなる温湿度の状態が見えるようになりました。この温湿度状態が長く続く場合を「危険な環境」と判断するようにシステムに設定することで、農園スタッフのスマートフォンにアラートメールが届き、適切なタイミングで適切な防除を行うことが可能となり、農薬散布回数と農園スタッフの作業工数削減につながりました。

こうしたICT活用による品質管理がワインの品質向上につながっており、2015年8月には、経済産業省より「世界にまだ知られていない、日本が誇るべきすぐれた地方産品『The Wonder 500TM』」の1つとして、「ワイン・ヴィーナス桜沢

シャルドネ」が選定されました。

2016年度は、防除の効率化と省力化に向けて、本システムの事業化の可能性を大学や果樹試験場と検証していく予定です。

奥野田葡萄酒醸造株式会社様の マルチセンシング・ネットワークのシステムイメージ



環境出前授業の受講者が年間1万人突破

富士通グループは、未来を担う子どもたちに環境の大切さを知ってもらうため、社員講師による環境出前授業を実施しています。2015年度は、195か所の小・中学校などで、延べ12,799名を対象に実施しました。

社員の声

多くの企業が社会貢献活動として出前授業を行っている中、富士通の環境出前授業は、「ものづくり」の視点で環境問題を考えるところからスタートしました。

私もメーカーの一員として、自分の言葉で子どもたちに環境問題を伝えたいと思い、この活動に参加しました。

子どもたちは講師の話に真剣に耳を傾け、また豊かな発想力で大人が思いもつかない答えを返してくれることも多く、毎回授業が楽しみです。

より深刻化していく地球環境問題について子どもたちが考え、そして自分ができることから行動を始めるきっかけになればという思いで、これからも環境出前授業の活動を続けていきたいと思います。



富士通株式会社
イノベーションビジネス本部
御園生 純一氏